

書名：もうすぐ絶滅するという
紙の書物について

著者：ウンベルト・エーコ
ジャン=クロード・カリエール

訳者：工藤妙子
出版社：阪急コミュニケーションズ
出版年月：2010年12月
総ページ数：469ページ
ISBN：9784484101132



推薦者

田村和之
鳴門教育大学大学院講師
現代教育課題総合コース

久しぶりに「おっ？」と気になる本であった。書店に入って、とにかく目につく。確かに、日本では珍しい外見の本ではある。まず、ハードカバーで500ページ近くもある厚さ(4cm!!)。真っ黒な表紙カバーに銀の文字。そして何よりも目につく真青に塗られた小口。

だが、この本からは外見以外の、何となく特別なものを感じた。自分の興味のあるジャンルの小説でもないし、専門分野の本でもないのだが。何度か店に通っているうちに、気がついたら購入していた。正直、特に「読みたい！」と思ったわけでもなく、もしかしたら、自宅の本棚で眠っていたかもしれない。事実、購入後は部屋の中に数ヶ月間放置されたままだった(ただ、これはカリエールがp382で述べていることで、正当化できるだろう)。

だが、この本を読み進めてみると面白い。とにかく面白い。エーコとカリエールの対談(司会者は基本的に話題の提供のみ)の形で書かれている。しかし、ただ単に紙媒体の書物について話し合っているのではなく、右に左に、上に下に脱線しながら「書物」というものについて語っている(電子書籍(電子媒体データ)や映画にも話は膨らんでいる)。

インターネットで調べてみるとレビューやら書評などは、電子書籍の事がまるでこの本のメインであるかのように扱っている(実際、この本の帯にも!!)。しかし、この本は単に電子書籍と紙媒体の比較等をしているものではない。電子書籍について述べられているのは本の冒頭部分のみで、残りの大部分では二人とも純粋に大好きな紙媒体の書物について語り合っているだけである。実際、オリジナルのフランス語のタイトル、“N’espérez pas vous débarrasser des livres” はそのまま訳すと「本から離れようたってそうはいかない(訳者あとがきより)」らしい。

本のタイトルやネットで見ることのできる各章のタイトルだけではどんな内容だか分かりにくいかもしれない。しかし、様々な雑談、余談、冗談、裏話を通して進められる本愛好家二人の会話は楽しく、誰もが読める一冊に仕上がっている。もし、あなたも本が好きなのであれば、是非とも一度は手に取って読んでみて欲しい。少なくとも、本棚に一冊、置いてあっても絶対に損はしない一冊である。

